

平成28年度 施策評価表

作成年月日：平成29年10月13日	課・グループ名	産業振興課農政グループ
-------------------	---------	-------------

施策名	③消費者との交流と食育の推進 2-1-③
------------	----------------------

1. 施策の現状分析及び展開方向

政策・施策の体系	大項目	中項目	小項目
	2. 地域ぐるみで支え育てる活力ある産業経済のまちづくり	(1) 地場の交流を通じた顔の見える農業・農村環境づくり	③消費者との交流と食育の推進
①施策のねらいと展開方向	<ul style="list-style-type: none"> ●地域の特性を活かした農産物を生産、加工、販売する等、6次産業化への取り組みを推進します。 ●地元消費者と生産者のお互いの顔が見える地産地消の取り組みを中心に、安全・安心な地元農産物の消費拡大を推進します。 ●地理的優位性を活かし、都市住民に向けた農産物の消流活動を推進します。 ●農業者自らが取り組むグリーンツーリズム事業を推進します。 ●クリーン農業を推進し、付加価値の高い食品づくりや販路拡大を促進します。 ●食に対する正しい知識の普及のため、家庭や学校等、様々な場において、食に関する知識を学び、生涯を通じて健全な食生活を営む能力を身につける「食育」を推進します。 		
②施策の現状と課題	現 状	課 題	
	<ul style="list-style-type: none"> ●生産者自らの取組みとして、朝市や花市が開催され、生産者と消費者との交流の場が設けられています。 ●農産物の高付加価値化や地場農産物の消費拡大のため、農業者自らが、直売所や地域等で直売を行っています。 ●関係するそれぞれの分野において食育に関する事業が行われています。 	<ul style="list-style-type: none"> ●農業・農村への理解や関心を深めるため、生産者と消費者との交流を促進する必要があります。 ●地域の特性を生かした農産物を生産、加工、販売するなど高付加価値化や地産地消を推進する必要があります。 ●食の安全・安心に対する関心が高まる中、消費者に信頼される農業を確立するため、「食」を通じて、農業の役割や重要性の理解を深める必要があります。 ●食育に関する施策を総合的かつ計画的に推進することが必要です。 	

2. まちづくりの成果指標の設定、達成状況

	設定の意図	まちづくりの成果指標名	数値化
① 成果指標	食育に関する事業は複数の部署で実施されているが、町全体として総合的かつ計画的に食育を推進することで、より効果の高い事業実施が図られることから、食育推進計画を策定し、計画に基づく食育推進活動を実施する。	成果指標 (総合計画・施策評価)	<input type="checkbox"/> 可 能 <input type="checkbox"/> 不 可 能 <input type="checkbox"/> 未 計 測
		代替指標 ※成果指標がない場合	指標の設定
		食育推進計画の策定	<input type="checkbox"/> 可 能 <input type="checkbox"/> 不 可 能
		※施策目的(施策の意図)の達成状況を把握するための指標を記載しています。	

②指標データ	単位	過年度実績			評価年度	目標年度	達成率増減の理由
		H25	H26	H27	H28	H28	
目 標			計画策定検討	計画策定	事業実施	事業実施	食育推進計画に基づき各種事業を実施した。
実 績	平成26年度より指標変更		計画策定検討	計画策定	事業実施	事業実施	
達成率							

評価視点	評価結果	理由、課題・問題点
③施策の達成状況	A 計画目標に向けて順調に推移 (目標達成は十分に可能である)	施策の達成度
	B 計画目標に向けて概ね順調に推移 (目標達成は可能である)	
	C 計画目標に向けての進捗はやや遅れている (目標達成が遅れる可能性がある)	B
	D 計画目標に向けての進捗は遅れている (目標達成は難しい)	

3. 施策を構成する事務事業の評価

【種類】事務事業の種類	【必要性】事務事業の必要性	【妥当性】町の関与の妥当性
(1) 自主事業(自主)	(1) 町が保障する町民生活の最低水準に関わるもの	(1) 町が実施主体となり、企業等が補完的な役割を行う事業
(2) 施設管理事業(施管)	(2) (1)を超えるサービスで町民ニーズが大きいと考えられるもの	(2) 実施主体は企業や町民団体等が適当であり、市が補完的な役割を担う事業
(3) 経常的事務(経常)	(3) (1)を超えるサービスで町民ニーズが小さいと考えられるもの	(3) 企業や町民団体等による実施が妥当な事業
(4) ハード事業(ハード)		

①事務事業評価結果											施策への貢献度 <高い> <普通> <低い>		
事業番号	事務事業名	種類	所管課名	成果指標	評価年度(H28)		事務事業の内容	必要性	妥当性	事務事業評価結果(方向性)		事業費(千円)	
					目標	実績						H28実績	H29予算
1	地産地消活動推進事業	(1)	産業振興課	①参加する生産者数 ②参加する生産者数 ③参加する生産者数 ④販売個数(H26より) ⑤生産本数 ⑥応募者数(H27より)	①10 ⑥50	①戸⑥人	①ファーム通信の発行 ②町内移動直売会 ③「朝市」「花市」の支援 ④南幌キャベツキムチ町民還元事業 ⑤特産物加工事業	Ⅱ	Ⅱ	1 現状のまま継続	461	高い	
					②150 ③120 ④3000 ⑤720	②戸 ③戸 ④個 ⑤本					660		
2	都市との交流と販路拡大事業	(1)	産業振興課	①参加者数 ②出店者数 ③観戦者数	①100	①人	①町グリーンツーリズム推進事業(農業者自ら取組む農作業体験などに対し、定額の補助金交付) ②アンテナショップへの出店 ③農産物PR対策事業(副賞として南幌町産農産物の提供)	Ⅱ	Ⅱ	1 現状のまま継続	168	普通	
					②6 ③15万	②戸 ③人					377		
3	食育活動推進事業	(1)	産業振興課	①参加人数 ②児童数 ③参加人数 ④支給数量	①50	①人	①親子農業体験塾 ②バケツ稲づくり学習 ③地元農産物を利用した料理・加工教室 ④子育て支援米の支給	Ⅱ	Ⅰ	2-1 見直して継続 拡大	506	高い	
					②55 ③20 ④950	②人 ③人 ④kg					3,305		
年度別施策全体の事業費合計(千円)													
H28事業費											1,135		
H29予算											4,342		

②H29に実施した新規事務事業					
実施計画	実施主体	事務事業名	事務事業の内容	H29予算(千円)	
1					
2					

評価視点	評価結果	理由・問題点
③事務事業の妥当性 (手段は妥当か)	A 効果的な事業構成である。 (現状のまま継続する)	食育推進については、子どもからお年寄りまで対象が幅広く、各世代においても食育の内容が異なってくることから、適宜状況に応じて事業を実施するとともに、必要に応じて見直しを行う。 地産地消については、町民のニーズなどを把握しながら、生産者と連携を図り推進していく必要がある。
	B 概ね効果的な構成である。 (一部見直し等の余地がある)	
	C あまり効果的な事業構成はない。 (見直し等の余地が大きい)	
	D 事業構成に問題がある。 (抜本的な見直し等が必要である)	
	事業構成の妥当性	B

4. 今後の方向性 ※外部評価(行政評価委員会)									
①総合評価 (今後の展開、事業の見直し等) 委員会評価	特に課題とすべき指摘事項はない。	事業の方向性 優先度 A~D (ランク)	事業番号				平成29年度以降の予算の方向性		
			A	3					
			B						拡大
			C	1	2				〇 維持
			D						縮小